

フットケア外来について

“読めますか？あなたの足は大丈夫？”

平成25年7月よりフットケア外来を開院し、医師が必要と判断した足病変のある糖尿病患者さまを対象に毎週月曜日、13時～16時で取り組んでいます。

糖尿病足病変の早期発見・予防に努め、患者さま自身にフットケアに関心を持って頂き、足を大事にして頂くことを目的としています。足の観察・足浴・爪切り等の処置を行いながら、一緒に大切な足を守る方法を考えています。

足を観れば患者さまの生活背景もわかり、日常の出来事について話もすることもしばしばです。フットケア外来を訪れた方は、これまで自分の頑張ってきた足が見違えるように変化していくのを実感され、私たちのやりがいがにも繋がっています。

今後では透析患者さまを含め、院内のフットケアに関して率先し役割を果たして行きたいと考えています。皆さんも一日よく働いた自分の足を観察してみませんか？

原田病院外来時長 飯村久二子



転倒・転落防止対策

転倒・転落防止対策チーム

元氣だった高齢者が転んで骨折し「驚ききりになった」あるいは「亡くなった」という話はしばしば耳にします。このように、転倒が深刻な事態を招いた直接の原因であるかのように聞こえますが実際は「転倒するほど、体の状態が悪くなっていた、その結果転倒した」と考えていただくことが期待できるかもしれません。

入院すると、不慣れな環境や病状の変化により、筋肉や注意力が低下し、高齢者の方は認知症が進行して思いがけず転倒・転落してしまうことがあります。

当院では、転倒・転落を予防するために、患者さまの状態をお調べすることで転倒しやすい危険度を確認して、患者さまと共に注意をしています。

転倒予防として、転倒防止体操等筋力の低下を防ぐリハビリや転倒予防に効果のある靴下の取り扱いを行っています。詳しくは外来看護師までお問い合わせください。

転倒・転落防止対策チーム
尾中幸恵



転倒予防体操（座位）

*毎日継続して実施しましょう！

①ももあげ

椅子に座り、太ももを大きくあげます。上にあげた状態で止め、ゆっくり降ろしていただきます。左右おこなってください。



②足あげ

椅子に座り、両足を上げて降ろします。上にあげた状態で止め、ゆっくり降ろしていただきます。



近隣医療機関のご案内 あまき内科泌尿器科医院（佐伯区五日市）

地域の患者さまに密着したかかりつけ医を目指して。

私は平成13年に、あまき内科を継承してあまき内科泌尿器科として開業しました。専門は排尿のトラブル全般についてです。女性では過活動膀胱、尿失禁の相談が多く、骨盤底筋体操や薬物療法を実施しています。

夜間頻尿を訴える患者さんも多く来院されます。この場合は慢性心不全による夜間多尿や、塩分の摂りすぎや糖尿病による多尿とを見分けることが重要です。男性の場合は前立腺肥大、前立腺がんがほとんどです。前立腺肥大症は昔は手術を始めることが多かったのですが、最近いい薬がでて手術せずに薬でコントロールできることが多くなりました。

注目すべきは前立腺がんで、患者数が右肩上がりに増え続けて高齢者のがんの中では第1位となり、死亡率もトップになろうとしています。早期発見のためにPSA検査を施行し、異常があればMRIで確認しますが、原田病院の先生方には大変お世話になっており、今後とも地域の医療連携を進めたいと思っています。

あまき内科泌尿器科医院
院長 池本 秀昭

- 所在地 〒731-5128 広島県佐伯区五日市中央2丁目1-10
TEL.082-922-2366 FAX.082-922-3880
- 診療科目 内科、泌尿器科
- 診療時間 午前 8:30～12:30
午後 15:00～18:00
- 休診日 木・土曜日午後、日曜日、祝日
- 駐車場 10台



③つま先あげ

椅子に座り、つま先を反るようになら足首をあげてください。あがるところまであげて止め、ゆっくり降ろしてください。



④かかとあげ

椅子に座り、つま先立ちをするようにかかとを持ち上げます。あがるところまであげて止め、ゆっくり降ろしてください。



⑤足の横開き

椅子に座り、足を開いた状態にします。足を開いて止め、ゆっくり足を閉じてください。



⑥肘ひざ合わせ

椅子に座り、腰を捻りながら対角線上の肘とひざを合わせます。合わせた状態で止めゆっくり元の姿勢に戻してください。交互におこなってください。



⑦立ち座り

椅子に座った状態で、両足を肩幅程度に開き椅子から立った状態にします。転ぶ心配がある方は手すりや椅子などを持ってください。



第19回 日本腹膜透析医学会

日時：平成25年9月28日（土）～29日（日）

場所：大阪国際会議場（大阪府）

9月28日、29日 大阪国際会議場で開催された「第19回 日本腹膜透析医学会」に、一陽会から4名・5演題の研究発表をいたしました。

演題：腹膜透析看護に自信のないスタッフへの支援について
～PDサポートチームの活動を振り返って～



医療法人一陽会 原田病院

○木村美智代、中村令子、木村菜穂子、
齊藤智子、小嶋加代子、新田千恵美、
吉田美幸、西澤欣子、水入苑生、
重本善一郎

【目的】

当院では2010年CKD外来の開院に伴い、腹膜透析患者が増加し、2011年8月PDサポートチーム（チーム）を立ち上げた。2010年3月腹膜透析患者2名から2013年3月25名となったが、多くの看護師はPDに携わった経験がなく実践に自信がなかった。2013年4月チームでのマニュアル作成、勉強会の実施は看護師の自信に繋がったが検証した。

【方法】

2012年3月PDの知識・技術の現状をアンケート調査し看護師130名から回答を得た。2012年5月に改訂したPDのマニュアルを使用し、6月、11月、2013年3月勉強会を実施した。2013年4月質問紙法で看護師138名を対象に勉強会・マニュアルの効果とチームへの要望を調査し、2012年3月の調査と比較した。

【結果】

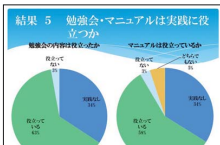
アンケート回収率2012年92%、2013年94%であった。アンケート調査によりIPDに関わる看護師は70%から73%、1ヶ月に關した最大数6日-10日が30%から53%と増加した。IPDの知識・技術の実践に自信がない 回答が49%から41%に減少した。2013年度の看護士は設問「勉強会が実践に役立つ」63%、マニュアルが実践に役立つ」58%であった。44%がチームへの要望に勉強会の継続、マニュアル改訂、新規作成などを記入していた。自由回答ではマニュアルに沿った実技の勉強会は理解しやすく、技術の習得や根拠に基づいた指導に役立ったと回答があった。

【考察】

患者数増加、勉強会、マニュアル活用により自信がないという回答は8%減少した。勉強会の継続、マニュアルの改訂の要望が多く継続的な取り組みが必要である。

【結論】

マニュアルに沿った実技の勉強会、マニュアル活用の推進は腹
 膜透析看護に対する自信獲得に有用である



考察

- ・患者数の増加、マニュアルに沿った実際の器具を使用したデモンストレーション、演習による勉強会は実践に活かされ自信獲得につながる。
- ・更に自信獲得に繋げるためにはスタッフが必要とするマニュアルの改定及び新規作成、学習するための教育プログラムの構築など制度的な取り組みが必要である。

海關一覽

- 一冊会における高齢者看護透析患者の現状と問題点
○西澤秋子、水本晃希、浅井真理子、日本伸明、山下和臣、水本晃一、重本憲一郎
- 自閉症患者に肩甲骨下出口を作成した1例
→導入可能な症例の小見解について→
○西澤秋子、小田まや、小野京香、山下亮樹、水本晃一、重本憲一郎
- PD看護に意欲的にかかわるための取り組みを考える
→看護師の意識調査から見たこと→
○里 令子、米倉良美、松村佳江、手嶋和子、新田千恵美、小嶋加代子、吉田美幸、水本晃一、重本憲一郎、原田 知
- PDケアの充実をめざした取り組み
→PD外立の立ち上げを経験して→
○川本千河、河合 彰、片山千秋、山縣紗織、島田一義、中村直正、花岡澄子、小嶋加代子、新田千恵美、吉田美幸、有田美智子、菊岡雅彦

TOPICS
トピックス
II

第63回 日本病院学会

日時：平成25年6月27日（木）～28日（金）

場所：朱鷺メッセ、ホテル日航新潟（新潟県）

6月27日、28日 新潟、トキメッセで開催された「第63回 日本病院学会」に一陽会から4演題の研究発表をいたしました。

演題：医事課職員の育成と今後の課題

医療法人一陽会 原田病院

○金子真由美、上野真由美、渡辺和徳、牛見好希、水入苑生、重本憲一郎

【はじめに】

当院は内科を主とした急性期病院で病床数120床、1日外来患者数は約207名である。

【目的】

医事課職員の在籍年数（経年数）の長短が業務に与えた影響と医事課の現状を評価し、今後の課題を考察した。

【方法】

過去5年間（H19～H23年度）の医事課職員数、在籍年数（非常勤含む）、時間外勤務、離職率、新患者数、レセプト件数、減点率、教育費用の関連をみた。また、医事課職員へ「職場に求める事」「参加してみたい研修」「長く勤めるために必要な事」のアンケートを行った。

【結果】

医事課職員は（／年）平均17.0±1.1人（最大18.4名、最少15.9名）、時間外勤務（／月）平均10.3±1.1時間（最大11.4時間、最少9.0時間）と人数、時間外勤務にはば変化は見られなかった。在籍年数（／年）107.8±14.7カ月、（H19年）95.4カ月→（H23）125.6カ月と30.2カ月と伸び、教育費用は（／年）平均696.6±196.76千円、（H19）541千円→（H23）1,026千円と倍増していた。レセプト件数（／月）は平均3,032±201.3件、（H19）2,795件→（H23）3,236件と+441件と大幅に伸び、レセプト減点率は（／月）平均0.13±0.05%、（H19）0.20%→（H23）0.09%と漸減した。

またアンケート結果は、業務の細分化、人員増員、定期的な外部への研修、保育園の充実を望むものであった。

【考察】

医事課職員数、時間外勤務にはば変化はなかったが、レセプト件数は伸び、減点数が減少したことから、在籍年数の伸びと教育体制の充実が医事業務の効率化に寄与したと考えられる。

【結語】

アンケート結果も参考に、医事課職員が働き続けられる職場環境を作ることが今後の課題である。

演題一覧

※看護部職員の自己啓発の要因を探る

～自己研修増加の要因を調査して～

○新田千恵美、松村佳江、井上哲也、栗栖啓子、本多祥子、吉田美幸、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

※看護部へのアンケート調査から新人看護士の独り立ちの基準を明らかにする

○森川夏子、松村佳江、手島和子、新田千恵美、吉田美幸、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

※アクションリサーチ法を用いた転倒転落防止に対する現状と課題

○大島敦子、村中玲子、井上哲也、斎藤留子、新田千恵美、吉田美幸、水入苑生、重本憲一郎、原田 知

考察①（業務に与えた影響）

- * 医事課職員数 →
- * 時間外勤務 →
- * 在籍年数 ↑
- * 教育費用 ↑
- * 新患者数 ↑
- * レセプト件数 ↑
- * レセプト減点率 ↓

- 医事業務の効率化の推進
- レセプトの質の向上

「長く勤めるために必要と思われること」

<制度面>

- 仕事と家庭の両立ができる体制
- 休暇取得制限の緩和
- 保育園の充実
- 回生なし



<精神面>

- 良好な人間関係
- 協調性
- 仕事を楽しくする
- 寛大な心
- 回生なし



考察②（今後の課題）

1. 在籍年数の上昇、時間外勤務の減少傾向にあるが、外来窓口業務（増加した診療室・患者数）が、現在の医事課員数ではカバーできていない
⇒ 外来窓口業務の見直し
2. 月末月初のレセプト請求に向けた時間外勤務、休暇取得の制限
⇒ 仕事と家庭を両立できる体制の構築
3. 病院は多職種であり、年齢層も近い職場環境の中、コミュニケーション不足等、さらにはストレスにより勤務困難へ
⇒ 良好な人間関係の維持